

[研究会報告]

## コロナ禍の学校生活

中野 貴司

川崎医科大学小児科学

### 要 旨

SARS-CoV-2 はヒトからヒトへ伝播する病原体である。高い致死率や合併症など疾病負担は大きく、治療やワクチンが未整備な現状では、感染拡大を最小限に留める対策が重要である。「Social distancing」や「密の回避」が COVID-19 対策として国内外で広く提唱されるが、その理論的根拠や解釈は、スペインインフルエンザや中世ペスト流行の頃から変わりが無い。学校は集団生活の場である。都市封鎖、交通遮断、集会制限などの介入手段と同様、学校生活を停止あるいは制限すれば、感染伝播の機会は減少する。しかし一方で、子どもたちの健全な成長発達に対しては、大きな影響がある。加えて、経済財政対策とは異なる社会的・心理的側面もあることをふまえて、今後の方策を講じる必要がある。

キーワード：COVID-19、小児、感染伝播、Social distancing、学校閉鎖

---

連絡先：〒700-8505 岡山市北区中山下 2-6-1  
中野 貴司  
TEL：086-225-2111, FAX：086-232-8343  
E-mail：nakano@med.kawasaki-m.ac.jp